

## 部活動の振興や体力向上の方策について

## 1. 現状

## (1) 新体力テスト

## 小学校

	全国平均を下回る項目	全国平均以上の項目
平成13年度	77 項目	19 項目
14	80 項目	16 項目
15	72 項目	24 項目
16	66 項目	30 項目
17	78 項目	18 項目
18	64 項目	32 項目

各学年は、(8種目・男)+(8種目・女)=16項目となり、6学年で96項目となる。

テスト種目 握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・50m走・立幅跳び・ソフトボール投げ  
20mシャトルラン

## 中学校

	全国平均を下回る項目	全国平均以上の項目
平成13年度	54 項目	0 項目
14	51 項目	3 項目
15	53 項目	1 項目
16	53 項目	1 項目
17	52 項目	2 項目
18	52 項目	2 項目

各学年は、(9種目・男)+(9種目・女)=18項目となり、3学年で54項目となる。

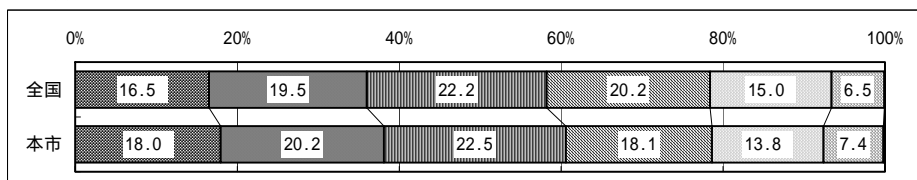
テスト種目 小学校のテスト種目及び持久走

## (2) 運動・スポーツの実施状況(学力・学習状況調査)

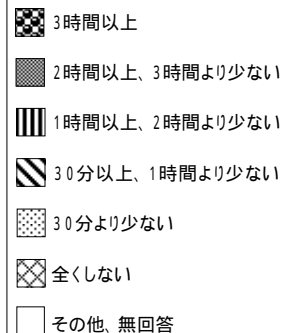
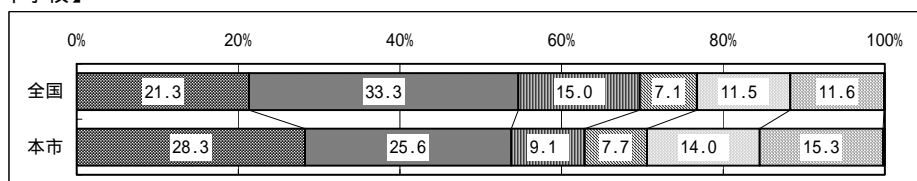
## 体育(保健体育)の授業以外(月～金曜日)の運動・スポーツ習慣

普段、体育(保健体育)の授業以外に、運動・スポーツをする時間は、小学校ではほぼ全国と同程度であるが、中学校では3時間以上すると答えた生徒の割合と全くしないと答えた生徒の割合が、全国を上回っている。

【小学校】\*質問20: 体育の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか



【中学校】\*質問20: 保健体育の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、運動・スポーツをしますか



### (3) 遊び場開放の状況

児童の安全な遊び場の確保のために、小学校の運動場、体育館を児童に開放。

平成19年度 128校 / 132校

ソフトボールなど登録団体利用(体育館・運動場) 個人利用(運動場のみ)

開放日 土・日・休日・長期休業日

#### 団体利用

	開放 学校数	児童数 (市立)	登録児童 数	全児童に対する 登録児童数の割合 /	年間団体利用 児童数	登録児童1人あたり の年間活動回数 /
昭和62年	132校	85,518人	50,443人	59.0%	762,846人	15.1回
平成9年	129校	59,014人	19,721人	33.4%	データ無し	
16	129校	52,532人	11,518人	21.9%	641,926人	55.7回
17	129校	52,564人	9,722人	18.5%	583,866人	60.1回
18	129校	52,344人	10,176人	19.4%	544,121人	53.5回

#### 個人利用及び施設開放回数

	学校数	児童数 (市立)	年間利用 児童数 (個人・運動場)	1人あたり の年間利 用回数 /	開放回数			
					体育館 (団体のみ)		運動場 (団体・個人)	
					全市	1校平均	全市	1校平均
昭和62年	132校	85,518人	291,998人	3.4回	データ無し		データ無し	
平成9年	129校	59,014人	データ無し		データ無し		データ無し	
16	129校	52,532人	89,002人	1.7回	13,025回	101.0回	19,358回	150.1回
17	129校	52,564人	129,964人	2.4回	10,560回	81.9回	32,127回	249.0回
18	129校	52,344人	122,205人	2.3回	10,291回	79.8回	29,610回	229.5回

この制度は、昭和40年度から開始。

(教育委員会 生涯学習課調べ)

### (4) 中学校の部活動の状況

#### 部活動参加率等(全体)

	学校数	生徒数	部員数	参加率 /	構成比			
					文化系		体育系	
昭和62年度	69校	48,826人	32,197人	65.9%	6,831人	21.2%	25,366人	78.8%
平成9年度	70校	33,061人	24,605人	74.4%	6,027人	24.5%	18,578人	75.5%
16	63校	25,375人	18,928人	74.6%	4,432人	23.4%	14,496人	76.6%
17	63校	24,965人	18,637人	74.7%	4,338人	23.3%	14,299人	76.7%
18	63校	24,643人	18,115人	73.5%	4,160人	23.0%	13,955人	77.0%
19	63校	24,308人	17,845人	73.4%	3,953人	22.2%	13,892人	77.8%

(H19.5.1現在 教育委員会 指導第二課調べ)

### 部活動参加率等（体育系）

	学校数	生徒数	運動部員数	運動部員の割合 /	延べ開設運動部数	1運動部あたりの部員数
昭和62年度	69校	48,826人	25,366人	52.0%	データ無し	
平成9年度	70校	33,061人	18,578人	56.2%	571部	32.5人
16	63校	25,375人	14,496人	57.1%	491部	29.5人
17	63校	24,965人	14,299人	57.3%	510部	28.0人
18	63校	24,643人	13,955人	56.6%	518部	26.9人
19	63校	24,308人	13,892人	57.1%	522部	26.6人

(H19.5.1現在 教育委員会 指導第二課調べ)

### 外部講師の配置状況

	学校数	体育系			文科系			外部講師計
		校数	実施率	講師数	校数	実施率	講師数	
平成9年度	70校	30校	42.9%	47人	13校	18.6%	19人	66人
15	63校	52校	82.5%	120人	25校	39.7%	28人	148人
16	63校	54校	85.7%	119人	26校	41.3%	31人	150人
17	63校	58校	92.1%	130人	26校	41.3%	30人	160人
18	63校	57校	90.5%	122人	21校	33.3%	25人	147人
19	63校	56校	88.9%	118人	25校	39.7%	29人	147人

(H19.5.1現在 教育委員会 指導第二課調べ)

### 中学校の部活動の実績（全国大会上位入賞校）

#### 中学校団体

年度	競技名	性別	学校名	成績
平成16年度	駅伝競走	女子	菅生中	準優勝
	柔道	男子	田原中	3位
	バスケットボール	女子	折尾中	3位
17	バドミントン	男子	高須中	準優勝
	柔道	女子	田原中	〃
	〃	男子	〃	〃
	駅伝競走	〃	菅生中	4位
	合唱	-	明治学園(私立)	金賞
18	バスケットボール	〃	木屋瀬中	優勝
	〃	女子	折尾中	準優勝
	柔道	男子	田原中	〃
19	〃	女子	敬愛中(私立)	優勝
	陸上(4×100mリレー)	〃	守恒中	4位

「中学校団体」について、平成15年度は、該当校無し。(H19.10.1現在)

## 中学校個人

年度	競技名	性別	学校名	成績
平成15年度	陸上(走り幅跳び)	女子	穴生中	優勝
	陸上(三種A)	男子	東郷中	3位
	柔道(48kg)	女子	香月中	優勝
	柔道(66kg)	男子	田原中	3位
	空手(組手)	女子	飛幡中	優勝
16	柔道(90kg超)	男子	大蔵中	3位
17	柔道(81kg)	"	田原中	優勝
	柔道(70kg)	女子	敬愛中(私立)	優勝
	柔道(90kg)	男子	田原中	3位
	水泳(50m自由形)	男子	折尾中	優勝
	陸上(1,500m)	女子	菅生中	準優勝
18	柔道(81kg)	男子	田原中	優勝
	柔道(73kg)	"	大蔵中	"
	柔道(60kg)	"	田原中	"
	卓球	"	則松中	3位
	陸上(四種競技)	"	付属小倉中(国立)	4位
19	柔道	女子	敬愛中(私立)	優勝

(H19.10.1現在 教育委員会 指導第二課調べ)

## 2. 主な取り組み(事業概要)

### 《学校での取り組み》

#### (1) 体力アップ推進事業

各学校の実態に応じた「体力アッププラン」の作成及び学校生活全体を通じた体力づくりを実施。

平成19年度:全小学校で策定

#### (2) 部活動振興事業

部活動推進のため、合同部活動や、外部講師の活用(147人:H19.5.1現在)、指導力向上のための研修を実施。

#### 部活動振興予算と部活動参加率

年度	予算(千円)	生徒総数(人)	部員数(人)	参加率
平成17年度	58,890	24,965	18,637	74.7%
平成18年度	59,090	24,643	18,115	73.5%
平成19年度	57,403	24,308	17,845	73.4%

### ( 3 ) 学校開放事業 ( 遊び場開放 )

児童の安全な遊び場の確保のために、小学校の運動場、体育館を児童に開放。

平成 19 年度 128 校 / 132 校

### 《学校以外での取り組み ( 市民スポーツ振興 )》

### ( 4 ) 子どもの健康・体力づくり推進事業

#### ジュニアスポーツステップアップフェスタ

トップアスリートやその指導者から直接指導を受けることでスポーツが本来もつ体を動かすことの「楽しさ」を感じ、目標に向かって努力することなどを学ぶ。

(平成 19 年度実績) 参加人数 462 人

平成 19 年 10 月 20 日(土) 北九州市立総合体育館

小・中学生のバスケットボール競技者を対象に、プロバスケットボールチーム「ライジング福岡」の選手による直接指導

平成 19 年 10 月 21 日(日) 小倉北体育館他

市内の小学校高学年を対象に、いろいろなスポーツを体験

ソフトボール 渡邊正子氏(シドニー五輪銀メダリスト)

バドミントン 片山卓哉氏(元バドミントン日本代表)

バレーボール 大谷佐知子氏(ロサンゼルス五輪銅メダリスト)ほか

#### ジュニアスポーツ体験教室

##### キッズスポーツひろば

小学生低学年を対象にスポーツやレクリエーション活動により体を動かすことの楽しさの体験、スポーツをする習慣の定着を図る。

(対象等) 小学校 1 ~ 3 年生、年間 2 期実施(各期 5 回)、各区 20 ~ 40 名参加

(内容) リズム体操やボール遊びなどレクリエーション要素をもつ種目等

##### はじめよう! 見つけよう! わたしのスポーツ

現在スポーツをしていない子どもたち等を対象に、様々なスポーツを体験してもらい自分にあったスポーツを見つける機会を提供するもの。

(対象等) 小学校 4 ~ 6 年生、年間 10 回開催、各区 20 ~ 40 名参加

(内容) 1 教室でテニス、バドミントン等(3, 4 種目)の体験教室を開催

### 「わくわく体験」スポーツ教室

学校の授業の一環として、スケートなど日頃できないスポーツ体験する機会を提供するもの。

(平成 19 年度実績)

(対象等) 小学校 1～2 年生の全児童 参加人数: 16,641 人 種目: スケート

### 子どもの健康・体力づくり推進事業

小学生の親子を対象に、体力測定やスポーツ教室に加え、健康づくりの観点から食育など、保健福祉分野の事業も取り入れた健康・体力づくり教室を実施。

(平成 19 年度実績) 総合型地域スポーツクラブ 2 クラブでモデル実施

## (5) 総合型地域スポーツクラブ育成・支援

クラブの設立支援、指導者の育成・派遣、運営費への補助

(現行クラブ)

戸畑コムスポ 香月・千代スポーツクラブ スポネット東郷

北九州陸上クラブ R1C 若松サンシャインスポーツクラブ

北九州スポーツクラブ ACE

#### 総合型地域スポーツクラブ

地域住民が自主的・自発的意志に基づき設立、運営されるスポーツクラブで、拠点施設をもっている、複数スポーツの実施、有資格の指導者の配置、青少年から高齢者にいたるまで幅広い年齢層が参加する等の特徴がある。

## 3. 課題

### (1) 全国平均(新体力テスト)と比較して低い体力

学校や幼稚園における体力向上への取り組みの活性化

授業以外の活動も含めた体力向上策 など

### (2) 定期的に運動する子どもとしない子どもの二極化

運動する機会の提供、運動習慣の定着のあり方

### (3) 子どもの外遊びの減少

安全な遊び場の提供

### (4) 部活動の活性化方策(位置付け、指導者の確保、環境整備等)

体力向上、人格形成等に有効かつ期待の大きい部活動における諸問題の解決(少子化による部員数減少、指導者の確保、環境整備等)

## 4. 課題についての検討状況

### (1) 北九州市体力向上検討委員会

#### 検討内容

子どもの体力に関する現状や課題の明確化、各校・園において取り組むべき内容、  
子どもの生活習慣等の改善

#### 検討状況

平成20年度中に意見をまとめる

#### 議論の方向性

学校の意識向上と詳細な実態把握(本市平均値の全国平均並みへの押し上げ)  
幼児、児童、生徒への運動動機付け  
保護者・地域への啓発 等

#### 考えられる施策

新体力テストの実施校、実施種目・学年の拡大  
体力アッププランの全校・園での策定  
楽しく運動に取り組む習慣づくりのためのキッズダンスの実施  
保護者・地域への啓発の充実 等

### (2) 部活活性化検討委員会

#### 検討内容

部活動振興上の課題を明らかにし、解決のための方策や問題点をまとめる  
部活動実態調査による、子ども・教師・保護者の実態把握  
調査結果を踏まえた支援策の検討 ほか

#### 検討状況

平成20年度中に意見をまとめる

#### 議論の方向性

部活動外部講師の拡充  
指導者の専門性・待遇についての支援策 ほか

## 5. 検討の視点

子どもの体力向上推進方策について(学校、家庭、地域の視点)  
部活動のあり方について  
学校を中心とした活動(子どもの体力向上・課外活動)とスポーツ振興施策と  
の連携のあり方